

2026年

6 月

中国四国農政局
広島県拠点

News Letter

初夏の農業体験学習 ～ 株式会社 藤本農園 ～

株式会社藤本農園の代表取締役 藤本 聡氏は、広島県北東部に位置し、鳥取県及び岡山県と接する標高約500m以上の地域が多くを占める庄原市東城町において、農林水産省が推進する「みどりの食料システム戦略」※1に基づく、「見える化」※2の実践や、食育活動にも取り組んでいます。

本ニュースレターでは、6月10日に広島市の安田小学校4年生（99名）を対象に実施した農業体験学習の様子について紹介します。

※1、※2について、詳しくは下段「関連サイト」をご覧ください。

「地域環境の保全及び循環型農業と農作業効率化の推進」

藤本氏から、この地域では山の斜面に沿って広がる棚田がダムのような役割を果たしていること、地域住民が協力して水路の清掃・管理を行い、ホタルや魚が生息できる環境を保全していること、農薬や化学肥料の使用を極力抑えるアイガモ農法や米づくりと牛の飼育を組み合わせた循環型農業（田んぼの草を牛の餌とし、牛のふんを堆肥として土に還元する仕組み）及び農作業の効率化（アイガモロボットや自動運転トラクター、データ管理による農業システム（スマート農業））について説明がありました。

児童たちは、説明のあと棚田や農業機械・施設の見学、牛舎での餌やり、田植えの体験をしました。



棚田や農業機械の説明



アイガモロボの説明



田植え体験

「体験から学ぶ食と農の大切さ」

藤本氏は、田植え体験後の座学で「農業は人の命を支える重要な仕事であること」、「農業を継続するためには『土・水・種』が不可欠であること」、「食べ物に対する感謝の気持ちを持つこと」について伝えられました。

また、広島県拠点は、本取組にあわせ、農業への理解促進のため、参加児童全員へ「ジュニア農業白書」を配布しました。農業体験に参加した児童からは、「牛に餌をあげるのが楽しかった」、「アイガモに触れて、その柔らかさが印象に残った」、「田んぼの中がぬるぬるしたけど冷たくて気持ち良かった」などの感想が寄せられました。

学習の終わりに、児童代表から「私たちが毎日食べているものは、あたりまえにあるものではなく、作ってくださる人たちのがんばりと、自然の力のおかげで食べられているんだと思いました。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。」とお礼の言葉がありました。



自社倉庫内での座学の様子



熱心に聞き取りメモ



アイガモ・アヒルのヒナとのふれあい

【関連サイト】

株式会社藤本農園ホームページ <https://www.aigamoya.net/>

農林水産省ホームページ「みどりの食料システム戦略」<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/>

中国四国農政局広島県拠点ホームページ「みえるらべるin広島」https://www.maff.go.jp/chushi/nousei/hiroshima/mieru_label.html

編集：中国四国農政局 広島県拠点

〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30

TEL (082)228-9676(内線304・305) <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。<https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>